別添9-2（別紙１）　取組概要　障害者の移行期の学びのモデル構築

社会福祉法人あいの実（所在地：宮城県仙台市）

事業名

重症心身障害者のためのICT支援とパーソンセンタードによる
「学び・創作・社会参加」教育モデル

事業の趣旨・目的

・学校卒業後の重度障害者に、ICT支援と個別フィッティングによる移行期の学びを実装する。
・学びを「自分を知る」「世界を知る」「役割を得る」過程として捉える。
・厚労省事業の記録・評価を基盤に、創作・マルシェ・役割創出へ発展させる。
・本人の意思表出に応じた、個別最適な学びと協働的な学びを構築する。

事業実施体制・連携先

実施：あいの実ストロベリー／Co：岩元優子
助言：福島勇氏、下川和洋氏、高橋俊史氏
連携：行政窓口、東北福祉大学生、地域団体等
現場：看護師・保育士・介護福祉士等／制作：むぎばこ

主な対象

肢体／内部障害／難病等／重度重複／その他（医療的ケア児者・重症心身障害者等）

活動分野

学習／文化芸術／情報保障／普及啓発／その他（社会参加・役割創出）

事業内容

・6月に第1回連携協議会を行い、対象者像、学びの定義、記録方法を共有する。

・7月以降、大学講師・高専教員等によるICT機器と入力支援のフィッティングを行う。

・Apple TV・Wi-Fiで学習画面をフロア全体に共有し、囲い込み型の学習から脱却する。

・視線入力作品を、傘、手ぬぐい、布作品等へ展開し、創作と販売体験につなげる。

・外部マルシェで、地域社会の受け入れや必要な合理的配慮を検証する。

・11月14日の内部マルシェで、接客、販売、飲み物提供等の役割を試行する。

・学生ボランティアの事前説明、参加、振り返りを行い、育成像を整理する。

事業終了後の目指す方向性

・重度障害者の学びを、ケアの付加物ではなく、尊厳と生活の質に関わる実践として整理する。
・個別最適なフィッティング、記録、合理的配慮を組み合わせた実装モデルをまとめる。
・ICT機器モニター、視線入力アーティスト、広報協力、接客・提供等の役割候補を示す。
・成果報告書と連携協議会を通じ、福祉事業所で実装可能なモデルとして発信する。

その他

厚労省事業「あいのきせき」で得た、視線入力、スイッチ、AI文字起こし等の記録手法を基盤とする。
生活介護で得た知見を短期入所ストロベリーへ展開し、学習者の反応を創作、役割、地域接点へつなげる。